

4.2 底質と底生生物の現況

瀬戸内海の底質と底生生物の概況について、環境省実施調査である「瀬戸内海環境情報基本調査（平成 27～30 年度）」では、以下のように考察されている。主要な項目の水平分布図については、図 4-17～図 4-18 に示す。

なお、環境省では、瀬戸内海での底質調査を、これまで第 1 回（昭和 56～62 年度）、第 2 回（平成 3～8 年度）、第 3 回（平成 13～17 年度）、第 4 回（平成 27～30 年度）と約 10 年間隔で実施してきた（資-6 を参照）。底質と底生生物の調査結果は以下のとおりである。

(1) 底質

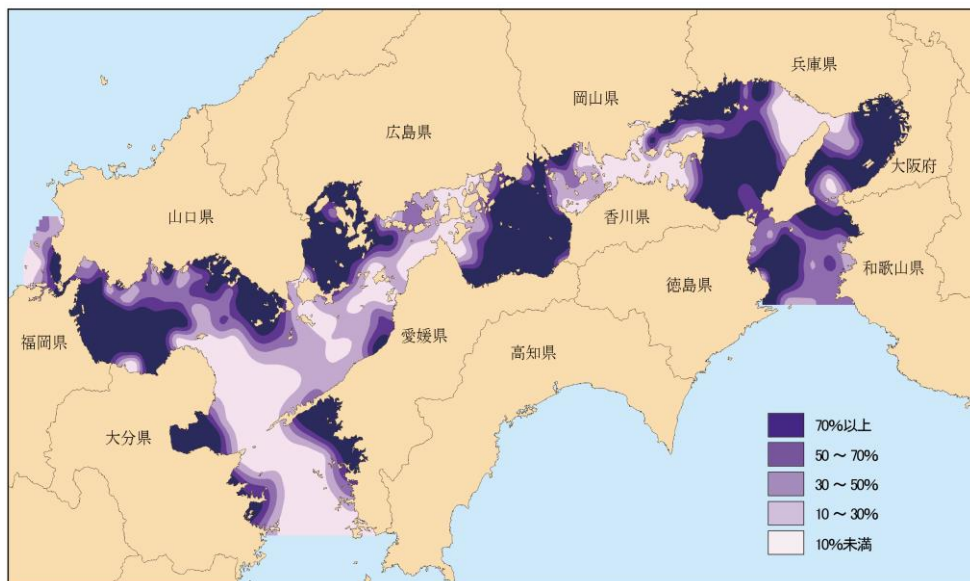
含泥率が低い海域（<10%）は豊後水道、伊予灘、安芸灘、備讃瀬戸、播磨灘東部であった。一方、大阪湾、播磨灘、備後灘、燧灘、広島湾、周防灘では含泥率が 80%を越えていた海域がほとんどであった。

(2) 底生生物

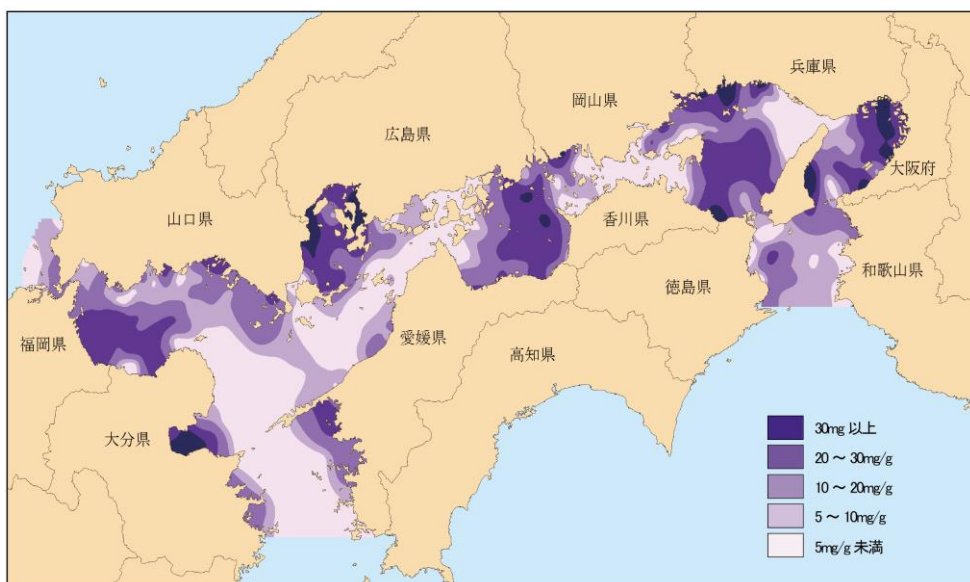
個体数は備後水道、伊予灘、安芸灘、備讃瀬戸や播磨灘の明石・鳴門海峡付近で高い傾向を示し、種類もこれらの海域で高かった。一方、大阪湾、播磨灘、備後灘、燧灘、広島湾や周防灘では個体数、種類数ともに低かったが、第 2～4 回調査間で上昇傾向であった。

4 水質・底質の現況

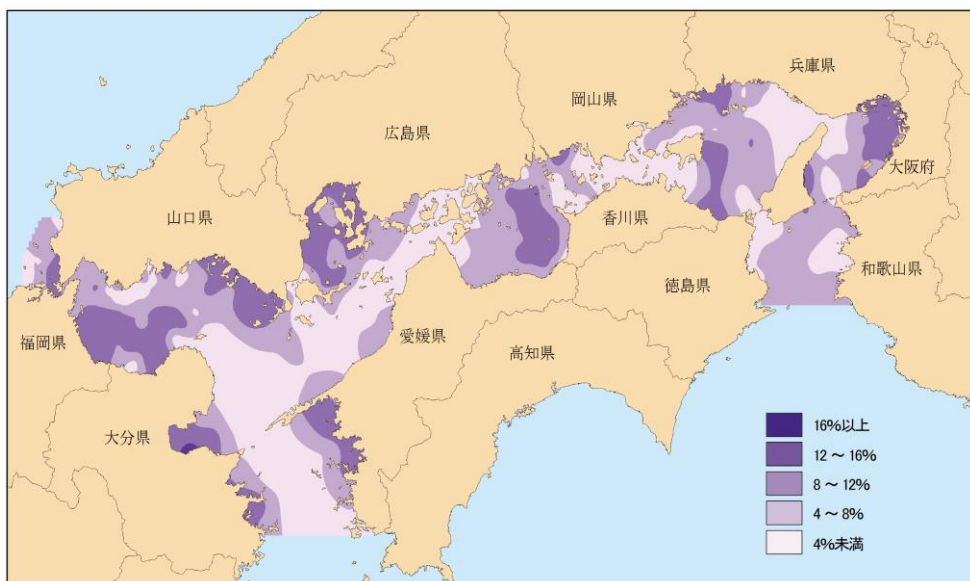
[含泥率]



[COD]



[強熱減量]

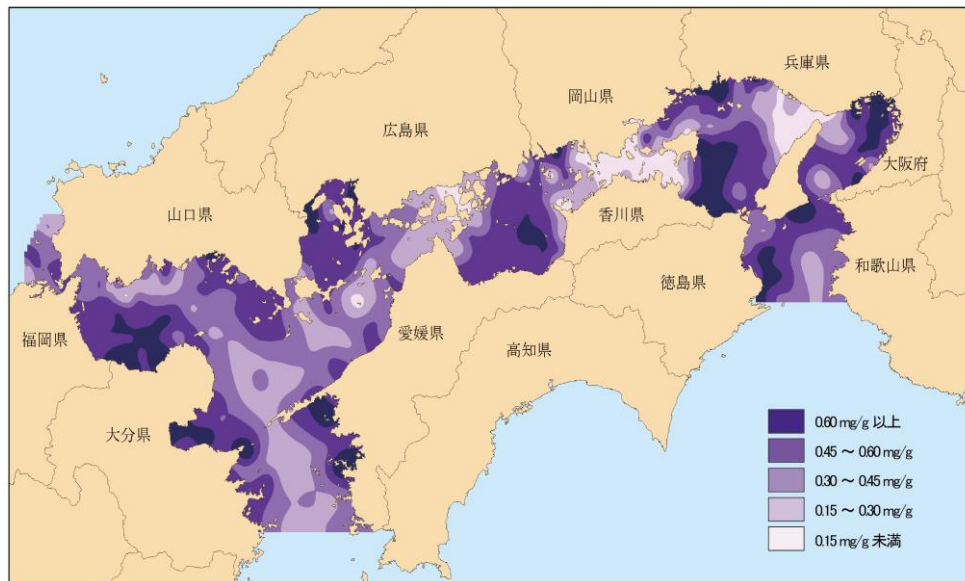


出典：平成 27～30 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

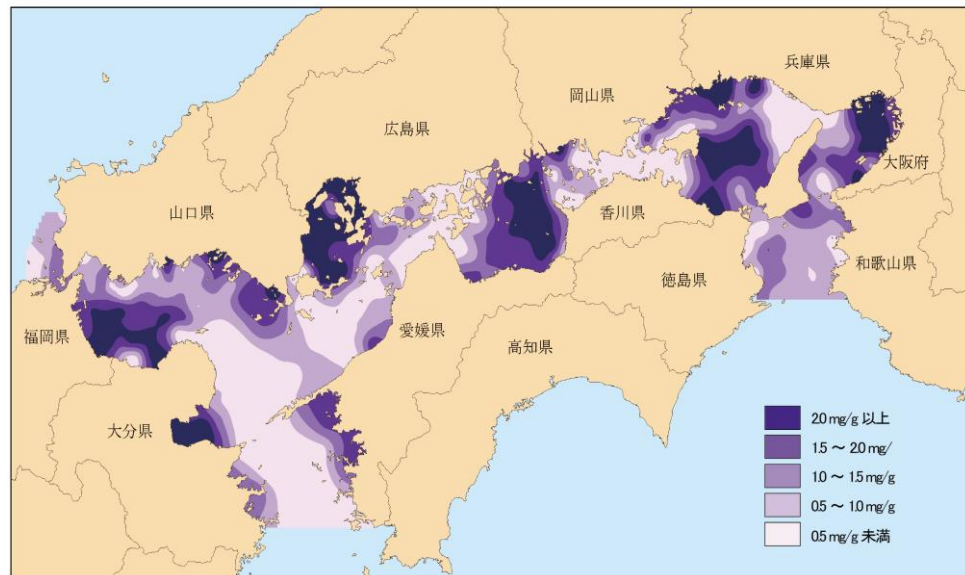
図 4-17 (1) 底質分布図

4 水質・底質の現況

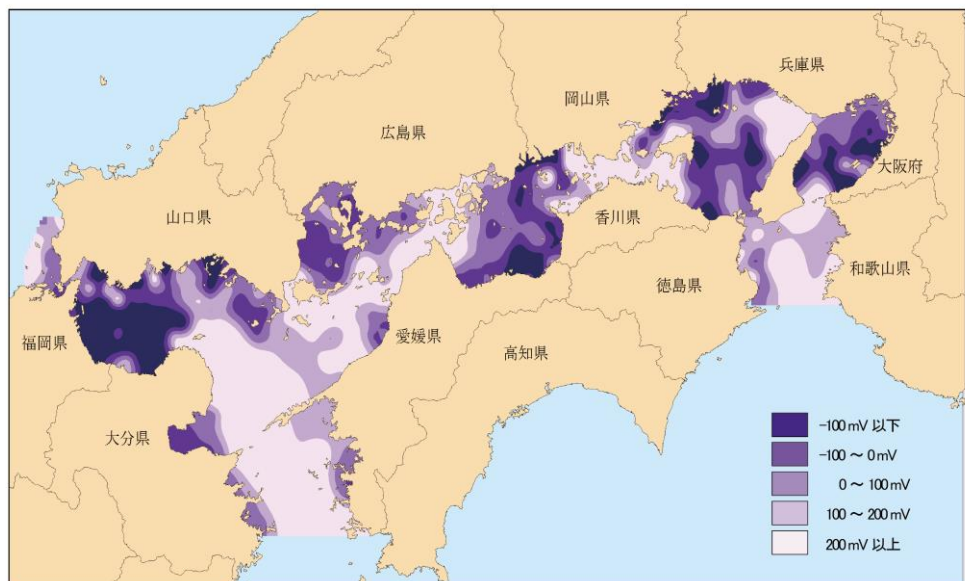
[全磷]



[全窒素]



[酸化還元電位]

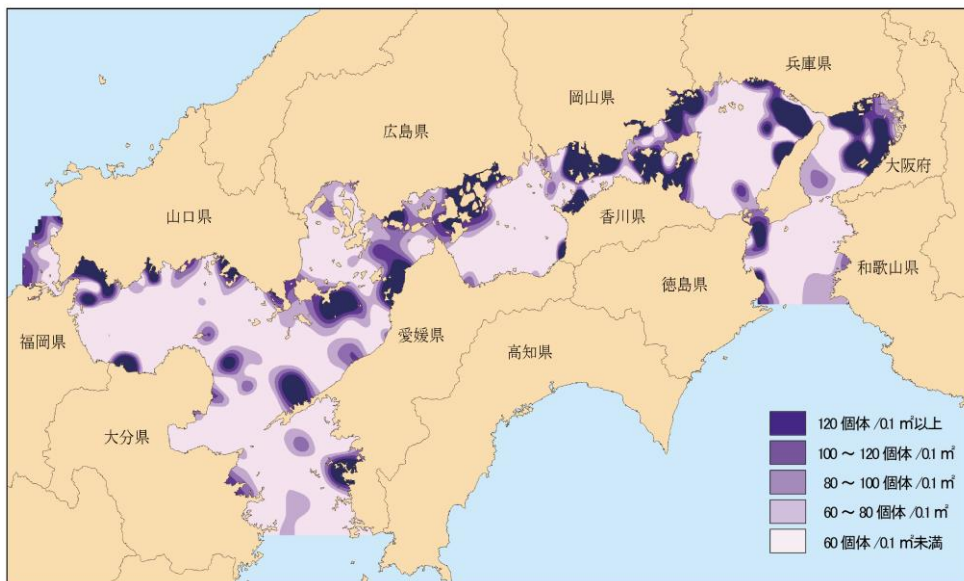


出典：平成 27～30 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

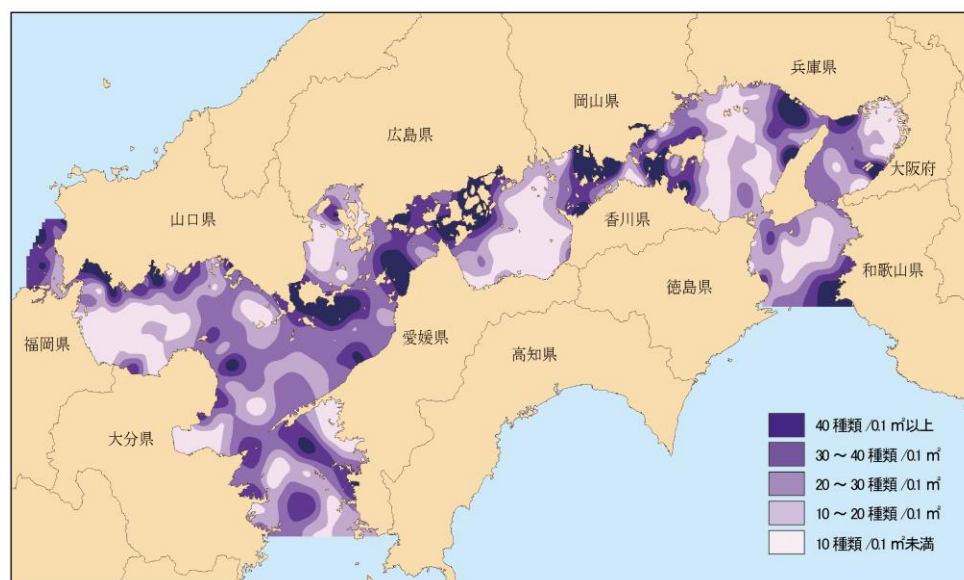
図 4-17 (2) 底質分布図

4 水質・底質の現況

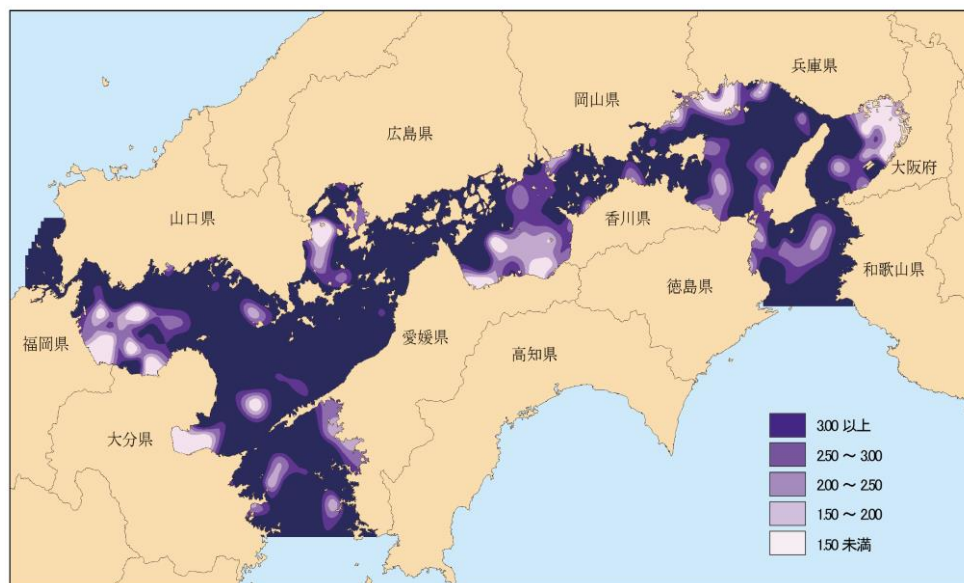
[マクロベントス個体数]



[マクロベントス種類数]



[マクロベントス多様性指数]



出典：平成 27～30 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

図 4-18 底生物分布図